

症例 5

右側の奥歯が全く咬み合っていない(はさみ状咬合)ことが原因で、引き起こされた右側顎関節症を、ソフトスプリントと補綴物による咬合再構成で治療した症例。

53才男性

永久歯列完成時(中学生の時)から、右側奥歯が咬み合っていないために、右顎関節が引っかかって常時痛く、口の開閉もままならない状態がずっと継続。その間、近くの病院でも有効な治療法が見つからず氷で顎関節部をひやすなどして、急性症状を抑えていたということでした。

正中は左に4mm以上ずれています。スプリントによる対症療法だけでは咬合させられないので、補綴(かぶせ物)を前提とした治療を開始。

残存歯は $\begin{array}{c} 6 \\ \text{---} \\ 7 \end{array} \begin{array}{c} 6 \\ \text{---} \\ 7 \end{array}$

まず、保存不能な左下第一大臼歯 $\begin{array}{c} | \\ 6 \end{array}$ を抜いて、左上下奥歯の仮歯 $\begin{array}{c} \textcircled{4} \textcircled{5} \textcircled{6} 7 \\ \text{---} \\ \textcircled{4} \textcircled{5} 6 \textcircled{7} \end{array}$ を装着。

(顎関節症において $\begin{array}{c} 7 \\ \text{---} \\ 7 \end{array}$ は重要な因子であるため $\begin{array}{c} 7 \\ \text{---} \\ 7 \end{array}$ も咬み合わせます。)

同時進行で右上奥歯の仮歯 $\begin{array}{c} 7 \textcircled{6} \textcircled{5} \textcircled{4} \\ \text{---} \\ 7 6 5 4 \end{array}$ を装着。

右側の仮歯は、上の4本をなるべく内側(口蓋側)に引っ込め、下の4本をなるべく外側(頬側)に出して、仮歯を入れ、咬合面同志がなんとか咬み合うようにします。

この時点で、少しの痛みだけで大きく口を開閉できるようになりました。しかし依然として下顎骨は左側後方にずれているので、ソフトスプリントを用いてそしゃく筋ストレス緩和療法を行い、下顎骨顆頭の右側

前方への三次元復位治療を開始。移動につれて仮歯の右前方 $\begin{array}{c} 5 4 \\ \text{---} \\ 5 4 \end{array}$ が強く当たり始め、左後方 $\begin{array}{c} 6 7 \\ \text{---} \\ 6 7 \end{array}$ が低くなってくるので、左後方 $\begin{array}{c} 6 7 \\ \text{---} \\ 6 7 \end{array}$ を高く、右前方 $\begin{array}{c} | \\ 5 4 \end{array}$ を低くしていきます。

さらに右側前方への復位が進むにつれて $\begin{array}{c} | \\ 4-7 \end{array}$ 舌側 $\begin{array}{c} 7-4 \\ \text{---} \\ 7-4 \end{array}$ 頬側を盛り足し $\begin{array}{c} | \\ 4-7 \end{array}$ 頬側 $\begin{array}{c} 7-4 \\ \text{---} \\ 7-4 \end{array}$ 舌側を削合することも行います。

この治療を1週間に一度のペースで行うと、この症例ではほぼ8週間で移動が終わり、上下正中線も合いましたので、下顎骨顆頭の三次元復位治療を終了します。

この段階ですべての顎関節症状(顎関節の雑音、痛み、引っかかり)が消失し、最大開口運動が可能になりました。

この時の咬み合わせが、顎関節に負担のないそしゃく筋がリラックスできる下顎骨顆頭の位置と考えられます。よってこの仮歯と同じ高さの最終補綴物(かぶせ物)の作製に着手します。右側に合わせて左側、左側に合わせて右側という手順で作製するのですが、今回のように上下左右臼歯の補綴を行う場合 $\begin{array}{c} 7 \\ \text{---} \\ 7 \end{array}$ 咬合面が早期接触のないならかな平面で、かつ眼耳平面に合うように作製します。こうしておけばスムーズな顎運動を行うことが可能になります。補綴物にハイブリッドを使用しておくことで咬合の上げ下げが自由にできるため、治療後の咬合変化にも即時対応できます。

治療後も睡眠時にナイトガード(ソフトスプリント)を入れて咬み合わせの後戻りを最小限に防止し、定期検診の咬合調整で咬合の変化に対応し、歯石除去で歯周病の進行を抑えていきます。

この方は治療後、気になっていた前歯のすきっ歯の治療も行っています。

Dr.へ

・技工サイドではwax upの時に、仮歯の唇面コアだけでなく舌面コアも同時に取ると、仮歯により近いwax upを作ることが可能になります。この時にwax trialできるwax(Proart)を使用し、口腔内で直接wax trialを行いますと、さらに誤差が少なくなります。

・咬合調整の咬合紙は少し高価になりますが、厚さ200ミクロンの和紙で作られたArticulating Paperを使用すると咬合圧がかかった時、どこにどれくらいの圧力がかかっているか一目瞭然になり、最後の詰めでその部位を一磨きしただけで、一挙に楽になることがよくあります。